

インドネシア：ジャカルタ初のLRTが開通

イーストスプリング・アジア・ナウ

Vol.70

eastspring
investments

継続されるインフラ開発

LRTが商業運転を開始一駅を中心とした街づくり構想も

- ▶ 2019年3月末に開通したジャカルタ都市高速鉄道（MRT）に続き、軽量高架鉄道（LRT）が2019年12月1日から商業運転を開始しました。
- ▶ 今回開通したのは、首都ジャカルタの北部と東部を結ぶ5.8キロメートル、全6駅の区間で、運賃は一律5,000ルピア（約40円、100ルピア＝約0.8円）です。デポジット式の乗車カードや電子マネーを利用して乗車できます。
- ▶ LRT建設と並行して、各駅の周辺に商業施設や住宅、公園などを配置し、日常生活を車に依存しない公共交通指向型都市開発（TOD）が行われています。このTOD事業には多くの民間企業が参加しており、日系の不動産会社も住宅開発に取り組んでいます。

TOD一駅を中心とした街づくり

- ジャカルタ首都圏では、世界最悪とも言われる渋滞が日常的に発生しています。LRT沿線では、駅の建設と同時に都市開発を行うことで、自家用車の通勤などによる渋滞を緩和しようとしています。
- また、駅から離れた地域の住民のために、自宅から最寄りの駅やバス停まで車で行き、そこから公共交通機関に乗り換えができるように、駅やバス停の近くに駐車場を整備することも進められています。
- 右の写真は「LRTシティ」と名付けられた都市開発計画のイメージ画像で、駅を中心に高層住宅や商業施設、公園が広がる様子が見て取れます。



写真：LRTシティ公式ホームページより

海外直接投資で期待される今後のインフラ開発

- ▶ ジョコ政権は、政府が出資する投資ファンド（ソプリンウェルスファンド）を設立する計画を発表しています。ファンドの調達資金の用途については、インフラ整備や、昨年閣議決定された東カリマンタン州への首都移転の費用に充てる考えも示しています。
- ▶ すでに今年1月、ジョコ大統領がアラブ首長国連邦（UAE）を訪問し、同国がソプリンウェルスファンドを通じて約230億米ドルの投資を行う約束を取り付けています。また、ソフトバンクグループがインドネシアの首都移転計画に最大400億米ドルの投資を表明しています。
- ▶ ジョコ政権は、今後ソプリンウェルスファンドを含む首都移転関連法案を発表するとしています。さらに、投資の支障となるとされる、内容が重複する法律を置き換え、複数の法令の内容を一本化することを目指す「オムニバス法」について、2020年の国会で審議する予定です。
- ▶ マイクロソフトが「オムニバス法」の設立を待って、インドネシアにローカルデータセンターを設立予定と発表するなど、今後法整備が進めば、さらに海外直接投資が増加し、インフラ開発等が加速することが期待されます。

※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。※また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。※また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

英国ブルーデンシャル・グループ